

# 第 4 次大分市国際化推進計画(案)

2021(令和 3)年 1 月

大分市企画部国際課

## 目 次

第 1 章 計画策定の趣旨	2
第 2 章 計画の位置付けと期間	3
第 3 章 国際化の現状	4
1. 日本の現状	
2. 大分県の動向	
3. 大分市を取りまく状況	
第 4 章 統計でみる国際化の現状	10
1. 世界の人口	
2. 日本・大分の人口	
3. 日本に住む外国人数	
4. 大分県に住む外国人数	
5. 大分市に住む外国人数	
6. 外国人宿泊者数	
7. 前計画(第 3 次大分市国際化推進計画)の評価	
第 5 章 計画の体系	12
第 6 章 施策と目標	14
施策 1: グローバル人材の育成	
施策 2: 国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり	
施策 3: 地域の産業の活性化につながる国際ビジネスの推進	
施策 4: 持続可能な世界の実現のための国際協力・国際貢献の推進	
施策 5: 人権尊重を基調とした多文化理解の促進	
施策 6: あらゆる国籍の人々が共に活躍できる環境づくり	
第 7 章 推進体制	20
第 8 章 国際関係団体の紹介	21
関連資料	23

## 第1章 計画策定の趣旨

本市では、2006(平成18)年に、本市を取り巻くグローバル化の環境変化を踏まえ「国際化・大交流時代の活力ある都市をめざして ～大分市国際化推進計画～(2006年～2010年度)」を策定しました。

2011(平成23)年には、「第2次大分市国際化推進計画(2011年度～2015年度)」を策定し、「めざせ！東九州の国際都市“OITA”」を掲げ、国際化を推進するための人づくりやまちづくりを進めてきました。

また、2016(平成28)年には「第3次大分市国際化推進計画(2016年度～2020年度)」を策定し、「めざそう！東九州の国際都市“OITA” ～ひろげよう！国際交流 つなげよう！世界と～」のスローガンのもと、「国際交流・国際協力」「多文化共生」を2つの推進テーマとして、国際化の進展を活かした地域の活力の維持・向上や市民の豊かさの向上につなげていくとともに、国際化の進展に伴い生じる課題に市民とともに取り組んできました。

この間、わが国においては、超高齢社会、人口減少社会の到来による生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展による地球規模での交流の活発化により、世界とのつながりを見出そうとする動きがさらに強まっています。

このような中、本市が今後も持続的に発展していくためには、多彩な国際交流、国際協力、経済交流による活力の創出や、すべての市民が地域社会の一員として支え合い、多様な文化や価値観を尊重しながら、持てる力を最大限に発揮できるまちづくりへ向けた取組が必要とされています。また、都市間連携などにより、本市が国際社会の一員としての役割を果たすことも求められており、広範な分野で体系的な国際施策を戦略的に推進していく必要があります。

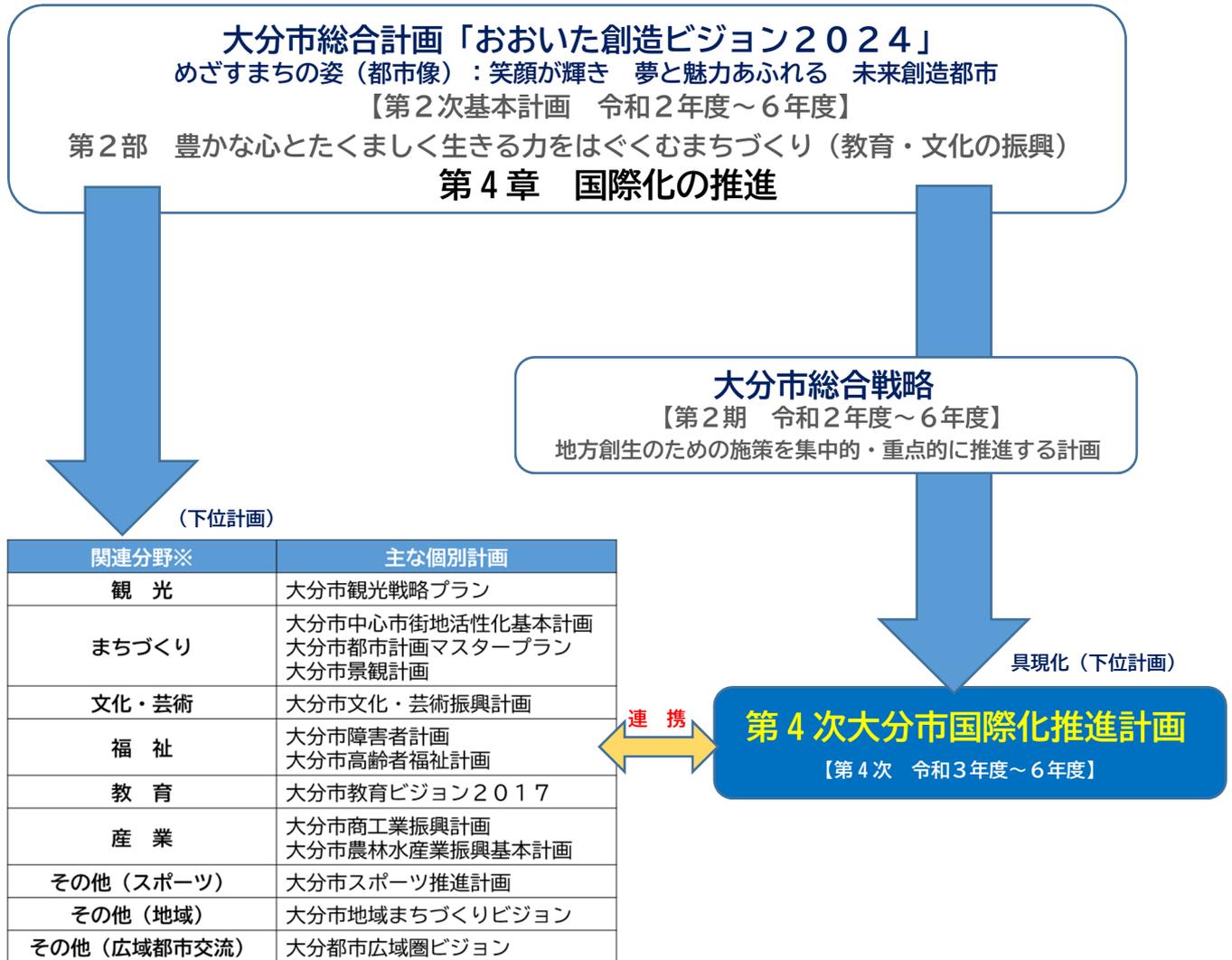
新しい計画では、「世界にチャレンジし続ける グローバル都市“OITA”」を掲げ、時代に則した先見性のあるビジョンを描きながら、広範な分野で体系的・戦略的に国際化を進めることにより、これまで以上に本市の特徴や個性を生かした、地域の発展や課題の解消につながる計画となるよう策定いたしました。

本計画に定めた方針に基づき、市民と行政がそれぞれの役割に応じた連携を図るなかで、本市の国際化を進めてまいります。

## 第2章 計画の位置付けと期間

### ■計画の位置付け

本計画は、市政運営上の最上位計画である「大分市総合計画(おおいた創造ビジョン 2024)」に基づき、本市の国際化の推進を具現化するために策定するものです。



### ■期間

2021(令和3)年度を初年度とし、2024(令和6)年度を目標年度とする4年間の計画とします。なお、本市を取り巻く状況や、経済、社会、地域の状況が大きく変化した場合には、計画期間途中においても必要な見直しを行います。

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
前計画 2016～2020年度	本計画: 2021(令和3)年度～2024(令和6年度)			次期計画策定

### 第3章 国際化の現状

#### 1. 日本の現状

わが国の総人口は、2008(平成 20)年をピークに減少し始め、出生数の減少による少子化の進行により、人口減少に歯止めがかからない状況となっています。加えて、地方と東京圏の経済格差の拡大等が、若い世代の地方からの流出を招くことにより、地方における人口減少が地域経済の縮小などの影響を与え、さらに人口減少を加速させるという悪循環の連鎖に陥るリスクが高まっています。

また、わが国の高齢化は世界に類を見ない速度で進展しており、このような超高齢社会の到来は、地域コミュニティにおいては、担い手の高齢化や人材不足が深刻化するなど、自治体経営にさまざまな影響を及ぼす可能性があります。

これを踏まえ、日本政府は、外国人労働者受入れ拡大を目指す改正出入国管理法に基づき、2019年4月に、日本国内における人材確保が困難な状況にある分野について、新在留資格「特定技能」を創設し、外国人に労働者としての門戸を開放するなど、深刻化する生産年齢人口の急速な減少による人手不足に対応しています。

また、パソコンやスマートフォンなどの情報通信機器が急速に普及し、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が新たな交流手段としての役割を果たすなど、生活に密着した多くのサービスがインターネットを介して提供されるようになったことにより、企業活動や市民生活、行政サービスなどにおいても、情報への依存度がますます高まってきています。

このような情報通信技術の急速な進歩と相まって、企業の国際的な競争の激化、外国人旅行者の増加によるインバウンド需要の高まりなど、社会経済活動のグローバル化が拡大しており、世界経済の動向が直接地域経済に影響を及ぼす時代になっています。

このような状況の中、2020年の新型コロナウイルスの世界的拡大に伴う影響により、感染拡大を抑止するため世界各国において渡航制限や移動制限が課されることとなり、経済活動や人的交流の停滞に直面しました。さらに、日常生活においても物理的なコミュニケーションが制限されたことで、「三つの密」の回避など、「ニューノーマル」に対応した新しい生活様式の実践が必要となりました。

一方で、オンラインを活用した新たな交流の機会も増加し、こうしたICT技術を取り入れた新たな交流は、世界とのコミュニケーションをリアルタイムで実現可能にさせ、多くの人に新たな交流のチャンスを展開できる好機ともなりました。

## 2. 大分県の動向(大分県海外戦略)

大分県では、海外施策の取組むべき方向性を示す羅針盤として、2011(平成 23)年 5 月に、「大分県海外戦略」を策定しました。その後、2015(平成 27)年 10 月には、当時の経済社会情勢の変化等を踏まえた戦略「大分県海外戦略(2015～2018)」を策定しました。

2019(平成 31)年 3 月には、海外との人や物の交流が盛んになった実績を踏まえながら、海外情勢をめぐる環境変化も見定め、「海外の成長を取り込みつつもに発展する」という基本理念のもと、「海外の活力を取り込む」「海外の人材を取り込む」「国際交流・国際貢献の推進」「国際人材の育成・活用」の 4 つの基本戦略から構成される「大分県海外戦略(2019～2021)」を策定しています。

### 3. 大分市を取りまく状況

情報技術や交通ネットワークの飛躍的な発展により、地球規模での交流が活発になるなか、世界の出来事がわたしたちの日々の生活にも大きな影響を与えています。

また、わが国では、超高齢社会、人口減少社会を迎え、経済を支える生産年齢人口の減少、市場の縮小が懸念されており、新たな市場を求めて、ますます海外展開に活路を見出そうとする動きが目立ってきています。

こうしたなか、本市が今後も持続的に発展していくためには、国際感覚を持ち、広い視野に立って考え活躍できるグローバル人材の育成や、あらゆる国籍の人々がそれぞれの持てる力を最大限に発揮できる人権尊重を基調とした多文化共生によるまちづくりなど、より積極的な取組が必要とされています。

あわせて、国際協力や都市間連携など、本市が国際社会の一員としての役割を果たすことも求められており、広範な分野で体系的な国際化施策を戦略的に推進していく必要があります。

## 【大分市の特徴や現状】

### ・「人口減少社会」と「超高齢社会」の到来

→本市の人口は、全国に比べ出生率はやや高く推移しているものの、人口置換水準には及ばない状況であり、今後、人口が減少へと転じることが予測されています。また、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、このままの状況で人口が推移していけば、2015(平成 27)年から 2045(令和 27)年までの 30 年間で、本市の総人口は約 4.4 万人、生産年齢人口(15 歳～64 歳)は約 6.8 万人減少すると予測されています。一方、老年人口(65 歳以上)は約 3.9 万人増加し、高齢化率は 36%に達すると予測されています。このように、少子高齢化に伴う人口減少は、社会経済の根幹を揺るがす危機的状況を招く恐れがあり、定住人口の増加を図るための住みやすい社会が実現できる環境を整備していくことが求められています。

### ・大分市に住む外国籍を有する市民

→本市に住む外国人数は、2020(令和 2)年 12 月現在で 3,484 人であり、国籍別では、中国(908 人)、ベトナム(684 人)、韓国(661 人)、フィリピン(335 人)、ネパール(198 人)、その他(698 人)の順となっています。また、外国籍を有する市民の割合は 0.73%であり、全国平均の 2.3%と比較しても割合は低くなっています。

### ・大分県の留学生

→大分県は、人口 10 万人当たりの留学生数は全国 3 位であり、特に別府市と大分市には多くの留学生が暮らしています。

### ・ラグビーワールドカップ 2019TM 日本大会の開催

→2019(令和元)年には、ラグビーワールドカップ日本大会が開催され、大分市でも大分スポーツ公園総合競技場において、準々決勝 2 試合を含む計 5 試合が開催されました。大会期間中のイベントへの総来場者数は 131 万人を超えるなど、国内外から多くの観客や観光客等が来市しました。また、祝祭の広場では、全 45 試合のうち 29 試合のパブリックビューイングを実施したところ、多くの市民が外国人とともに盛り上がり、交流を深めることができました。

大会期間中、中心市街地はかつてないほどの外国人観光客で溢れ、多くの市民が世界中の人々と感動を共有するなど、大分開催は大成功のうちに幕を閉じました。

### ・大友宗麟とフランシスコ・ザビエル

→戦国大名大友宗麟は、聖フランシスコ・ザビエルを豊後府内に招き、海外との貿易を積極的に進めました。府内のまちは海外の品々があふれ、異国の人々が行き交い、西洋の医学、天文学、音楽、演劇をはじめとする南蛮文化がいち早く花開き、日本を代表する国際色豊かな貿易都市として繁栄しました。本市はこのような特色のあるキリシタン・南蛮文化の魅力を国内外へ発信するとともに、市民の郷土意識の高揚へ活用しています。

### ・市民意識調査

→2019(令和元)年 11 月～12 月にかけて市民 4,000 人へ、2020(令和 2)年 8 月～9 月にかけて留学生、国際関係団体、企業などへ第 4 次大分市国際化推進計画策定に係る「市民意識調査」を行いました。「グローバル人材の育成に力を入れるべき」「海外との経済交流による地域活性化に期待する」など、本市の国際化に関する多くの意見をいただきました。

※調査の結果の詳細は、巻末の資料「大分市国際化推進計画策定に係る市民意識調査～報告書～」をご覧ください。

## 【参考】

### 大分市の姉妹都市・友好都市・交流促進都市

#### ■ポルトガル共和国 アベイロ市(姉妹都市)

人口: 約8万人(2019年国勢調査)

面積: 199.7km<sup>2</sup>

姉妹都市提携日: 1978(昭和53)年10月10日

位置: ポルトガルの首都リスボンの北方約250km

主な産業: 卸売業、観光産業、石油化学工業、製鉄業

アベイロ市は、気候が穏やかで、また海が入り江まで入り込み、運河となって四方に流れ込む地形から、ポルトガルのベニスと呼ばれており、観光地として世界各国から観光客が訪れています。歴史ある町で、郊外には中世の城や修道院の遺跡といった文化的遺産も数多く残っています。産業は、卸売業や観光産業が中心で、石油化学工業や製鉄業も盛んです。また、重要な漁港もあり、塩の生産地としても有名です。

大分市は、16世紀半ばの大友宗麟の時代からポルトガルとの交流が盛んにおこなわれ西洋文化が開花したという歴史的背景を踏まえ、姉妹都市を提携しました。以来、文化・芸術やスポーツを通じた交流などを行ってきました。

2018年には姉妹都市提携40周年を記念して、アベイロ市長を団長とする訪問団を受入れ、今後10年の交流にかかる共同宣言の調印を行ったほか、青少年によるサッカー交流やホームステイなどが行われました。

#### ■中華人民共和国 湖北省 武漢市(友好都市)

人口: 約1,022万人

面積: 8,494.4km<sup>2</sup>(市街地176km<sup>2</sup>)

友好都市締結日: 1979(昭和54)年9月7日

気候: 亜熱帯の大陸性気候

位置: 中国の華南 東経113度41分-115度05分 北緯29度58分-31度22分

2009年武漢市GDP: 4,620.86億人民元

武漢市は、亜熱帯の大陸性気候で四季がはっきりしています。特に夏は、最高気温が40度を超えることがあり、重慶・南京と並んで中国の三大ストーブと呼ばれ、その暑さは有名です。歴史的には、大詩人屈原を輩出した春秋戦国時代の楚の国として、また三国志の舞台としても悠久の歴史をもち多くの名勝旧跡に恵まれています。湖北省の政治・経済・文化の中心としてだけでなく、北京、上海、広州、重慶からほぼ1,000kmから1,200kmの距離にあることから、中国における経済・貿易・金融・交通・科学技術の主要な拠点として重要な役割を果たしています。

1974年より武漢鉄鋼コンビナートの近代化プロジェクトにより、武漢市から延べ200人の技術者が大分市に長期滞在し、また大分市からも数多くの技術者が武漢市へ派遣されるなど、市民間の往来が次第に頻繁となったことが契機となり、友好都市を締結しました。以来、農業実習生の受入れや中学生相互派遣、大分交響楽団武漢公演、武漢雑技団大分公演、ビジネスなどさまざまな分野で交流を行ってきました。

2019年には友好都市締結40周年を記念して、大分市訪問団が武漢市を訪問し、公式レセプションに参加しました。

#### ■アメリカ合衆国 テキサス州 オースチン市(姉妹都市)

人口: 約100万人(2020年)

面積: 845.0km<sup>2</sup>

姉妹都市提携日: 1990(平成2)年10月30日

平均気温: 冬7 ~ 14度、夏26 ~ 38度前後

主な産業: IT産業、音楽産業等

オースチン市は、アメリカ合衆国の南西部に位置し、テキサス州のほぼ中央にある教育水準の高い都市で、特に全米屈指の規模を誇るテキサス大学の本校には、世界各国から集まった5万人近い学生や研究者が学んでいます。気候は1年のうち約300日が晴天で、特に夏は5月から9月まで続き、湿度も高めです。緩やかな丘陵地に囲まれた市の中心部にはロッキー山脈を水源とするコロラド川が悠然と流れており、自然や緑にも恵まれています。経済の中心はIT産業であるほか、ライブハウスが200以上軒を連ねるほど音楽産業も盛んです。

大分県でテキサス会議が開催されるなど、大分県とテキサス州の交流が活発であったことに加え、オースチン市とは産業・文化面で類似していることから、姉妹都市の提携を行いました。以来、文化、芸術、スポーツ、ビジネスなど、幅広い分野で交流を行ってきました。

2020年には、姉妹都市提携30周年を迎えました。

■中華人民共和国 広東省 広州市(交流促進都市)

人口:約1,270万人(2010年 第6次人口調査)

面積:7,434.4km<sup>2</sup>(市街地3,719km<sup>2</sup>)

交流促進都市覚書交換:1997(平成9)年10月9日

位置:中国華南地区

気候:亜熱帯モンスーン気候

年平均気温:20~22度

年間降水量:1,982.7mm

平均湿度:77%

広州市は、広東省中部の南海に面した珠江デルタの中央部に位置する広東省の省都です。気候は亜熱帯モンスーン気候に属しており、四季を通じて緑が豊かで花々が咲き乱れ、「花城」と呼ばれています。中国南方の重要な通商都市で交通の要衝、港湾都市であり、華南地区最大の国際貿易港を有しています。

アジア太平洋都市サミットが縁で、アジア太平洋地域のネットワークの構築並びにオープンな国際交流の展開のため、交流促進都市締結の覚書の交換を行いました。

## 第4章 統計でみる世界・国内の状況

### 1. 世界の人口

- 世界の人口の推移(総務省統計局・世界の統計 2020)
- 地域別の世界の人口構成(総務省統計局・世界の人口 2020)

### 2. 日本・大分の人口

- 日本の人口推移(総務省統計局・日本の統計 2020)
- 大分県の人口推移(大分県統計年鑑)
- 大分市の人口推移と予測(大分市人口ビジョン)

### 3. 日本に住む外国人数

- 日本に住む外国人数の推移(法務省・在留外国人統計)
- 在留資格別外国人数の割合(法務省・在留外国人統計)
- 外国人留学生の推移(独立行政法人 日本学生支援機構)

### 4. 大分県に住む外国人数

- 大分県に住む外国人数の推移(総務省・都道府県別 国籍・地域別 在留外国人)
- 大分県の在留資格別外国人数の割合(総務省統計局 在留資格別 在留外国人)
- 外国人留学生の推移(日本学生支援機構 留学生調査)

### 5. 大分市に住む外国人数

- 大分市に住む外国人数の推移(大分市住民基本台帳)
- 大分市の在留資格別外国人数の割合(大分市住民基本台帳)
- 大分市の外国人留学生数の推移(大分市住民基本台帳)

### 6. 外国人宿泊者数

- 日本の外国人宿泊客数(観光庁 宿泊旅行統計調査)
- 大分県の外国人宿泊客数(大分県観光統計調査)
- 大分市の外国人宿泊客数(大分県観光統計調査)

7. 前計画(第3次大分市国際化推進計画)の評価

(1)目標の達成状況

前計画で掲げた目標数値の達成状況は以下のとおりです。

推進テーマ「国際交流・国際協力」で掲げた6項目中、3項目について「達成」となり、3項目について「未達成」となっています。未達成項目の中には、新型コロナウイルス感染症拡大による影響等により、基準値と比べて減少しているものもあります。また、「国際課公式 Facebook ページのフォロワー件数」についても目標値を下回るなど、厳しい結果となりました。

推進テーマ「多文化共生」で掲げた2項目については、いずれも「達成」となっています。

**※2020年9月末の実績値であり、年度末の数値をもって最終的な評価をする予定です。**

推進テーマ	施策	目標	基準値		目標値	実績	目標達成状況
国際交流・国際協力	【施策1】 国際感覚豊かな人づくりの推進	外国人と直接触れ合える事業に参加した子供の数	22,772人 (2014年度)	⇒	40,000人 (2020年度)	38,731人	基準値を上回っているが、「未達成」である <b>※2020年9月末時点</b>
		国際課公式 Facebook ページのフォロワー件数	—	⇒	318件 (外国人住民の約1割)	295件	「未達成」である <b>※2020年9月末時点</b>
	【施策2】 まちの活性化につながる国際交流の推進	ラグビーワールドカップ大分開催で設置する交流スペース「ファンゾーン」等への来場者数	—	⇒	250,000人 (50,000人×大分市開催5試合)	352,700人	目標数値を上回っており「達成」している
		海外への経済交流支援企業数	335件 (2003～2014年度累計)	⇒	575件 (2016～2020年度累計)	267社	基準値を下回っており、目標数値も「未達成」である <b>※2020年9月末時点</b>
		外国人が参加したイベント数	16イベント (2014年度)	⇒	20イベント (2016～2020年度平均)	20件	目標数値を上回っており「達成」している
	【施策3】 国際協力の推進	国際協力事業のサポート件数	14件 (2014年度)	⇒	20件 (2016～2020年度平均)	33件	目標数値を上回っており「達成」している
多文化共生	【施策4】 多文化理解の促進	国際化、多文化共生イベントへの参加者数	20,538人 (2014年度)	⇒	25,000人 (2016～2020年度平均)	40,741人	目標数値を上回っており「達成」している
	【施策5】 外国籍を有する市民への支援と共生への体制整備	外国籍を有する市民への生活オリエンテーション等の実施数	35件 (2014年度)	⇒	50件 (2016～2020年度平均)	57件	目標数値を上回っており「達成」している

## 第5章 計画の体系

計画全体の体系図です。基本方針、推進テーマ、施策と目標を設定し、推進していきます。

本計画を策定するにあたり、本市の国際化の現状を把握し、計画に反映させるため、以下のアンケート調査を実施しました。各種調査結果については、巻末の資料「大分市国際化推進計画策定に係る市民意識調査～報告書～」に掲載しています。

### (1)令和元年度 大分市民意識調査

調査期間:令和元年11月15日～12月13日

### (2)令和2年度 大分市の国際化に関するアンケート調査(留学生・国際関係団体・企業等)

調査期間:令和2年8月17日～9月18日

#### 《基本理念》

世界にチャレンジし続ける グローバル都市“OITA”

#### 《基本方針》

地域の発展や課題の解決に向け、国際交流・国際協力を推進するとともに、グローバル人材の育成や共生社会の実現に取り組みます。

また、民間の活動を積極的に支援するなど、市民との連携により、本市の個性や魅力を生かした国際化を推進します。

#### 《推進テーマ》

推進テーマ①:国際交流・国際協力～多彩な国際交流・国際協力によるまち・ひとの活力の創出

国際交流の主役である市民や団体、企業などが多彩な国際交流・国際協力・経済交流を通じて相互に長所を活かし、それぞれが魅力を高めることにより、新たな地域活力を創出します。

推進テーマ②:多文化共生～外国にルーツを持つ人々も暮らしやすいまちづくり

外国にルーツを持つ人々も含めたすべての市民が地域社会の一員として支え合い、多様な文化や価値観を尊重しながら、持てる力を最大限に発揮できるまちづくりを目指します。

#### 《施策と目標》

推進テーマ① 施策1:グローバル人材の育成

目標①:外国人と交流し、世界へ目を向けよう

目標②:国際化の情報に関心を持つ

推進テーマ① 施策2:国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり

目標①:国際色をプラスし「まち」ににぎわいを作ろう

目標②:海外からの観光客を「おもてなし」し大分市のファンを増やそう

推進テーマ① 施策3:地域の産業の活性化につながる国際ビジネスの推進

目標①:海外ビジネスにチャレンジしよう

推進テーマ① 施策4:持続可能な世界の実現のための国際協力・国際貢献の推進

目標①:身近でできる「国際協力」から始めてみよう

推進テーマ② 施策5:人権尊重を基調とした多文化理解の促進

目標①:国際化・多文化共生イベントに参加しよう

推進テーマ② 施策6:あらゆる国籍の人々が共に活躍できる環境づくり

目標①:外国にルーツを持つ人々も暮らしやすいまちにしよう

※新型コロナウイルス感染症の拡大について

新型コロナウイルス感染症の拡大の予防が講じられる間は、「新たな生活様式」に即した交流への対応が必要です。新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される間は、「with コロナ」として新たな生活様式を踏まえながら、海外都市との交流を進めます。特に、姉妹友好都市交流をはじめとする派遣や受入が伴う相互交流については、状況を注視しながら安全が確認された上で実施していきます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大は、オンラインを活用した新たな交流機会の増加にもつながりました。こうした ICT 技術を活用した新たな交流は、世界とのコミュニケーションをリアルタイムで実現可能にさせ、多くの人に新たな交流のチャンスを展開できる好機ともなりました。このような新たな交流形態についても、各施策において幅広く進めていきます。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が収束したのちには、ICT 技術の活用等新たな生活様式で得たメリットを踏まえながら、姉妹友好都市をはじめとする海外都市との積極的な交流を進めていきます。

## 第6章 施策と目標

### 推進テーマ: 国際交流・国際協力

#### 施策1: グローバル人材の育成

##### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

本市では、青少年が世界に目を向け、コミュニケーション能力を高める機会として、学校では外国人指導助手(ALT)が授業へ参加し、交流を行っています。また、様々なイベントを通し青少年が外国人と触れ合う機会を提供してきました。

今後は、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力や協調性を持つ、グローバル人材の育成に向け、青少年が外国人と交流する機会を創出することで、自らが海外へチャレンジし、道を切りひらいていくための力を養う取組が必要となってきます。

また、豊かな国際感覚を持ち、世界で活躍できる青少年を育成するために、身近な国際化の情報に興味を持ち、国際的な視野を育てていくことが必要です。

##### 【将来像】

視野を世界に広げ、チャレンジ精神や多様性を受け入れる力が身につきます。

目標①: 外国人と交流し、世界へ目を向けよう

目標②: 国際化の情報に関心を持つ

##### 【これまでの主な取組み例】

①外国人と交流し、世界へ目を向ける事業	
事業名	担当課
青少年国際理解推進事業：リトルオースチン村	国際課
留学生活用事業：おでかけENGLISH	国際課
日中友好交流都市中学生卓球交歓大会大分市選手団派遣事業	国際課
姉妹都市アベイロ市40周年記念事業	国際課
友好都市武漢市中学校交流事業	学校教育課
友好都市武漢市小学生受入事業	国際課、学校教育課
友好都市武漢市車いすマラソン選手受入事業	国際課
幼稚園、小学校、中学校ALT派遣事業	学校教育課
フィジー共和国との交流事業	東京オリンピック・パラリンピック推進局
公民館での各種交流事業	市民協働推進課
②国際化の情報に関心を持つための事業	
事業名	担当課
大分市国際課公式Facebookページ事業	国際課

##### 【数値目標】

・外国人と交流する事業に参加した子どもの数: 43,000人 (2024年度)

## 施策2:国内外から人々を惹きつける魅力あふれるまちづくり

### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

2019年のラグビーワールドカップ日本大会では、大分市は準々決勝2試合を含む5試合が実施され、欧米を中心に多くの外国人観光客が訪れました。これを機に本市の伝統文化の紹介やボランティア等によるおもてなしにより、大分市のファンを増やすことができました。また、多くの市民にとっても言葉を超えて一緒になって盛り上がったこの経験が、忘れがたいレガシーとして残りました。

今後も本市の持つ豊かな自然や歴史、文化、観光資源など、多様な魅力をすべての市民で共有するとともに、様々な形で国内外に発信することで、人々を惹きつけ、訪れた人が満足、感動できるまちづくりを目指します。

#### 【将来像】

本市の魅力を国内外に発信し、国内外の人々から活力を取り込むことで、まちの活性化につながります。

目標①:国際色をプラスし「まち」ににぎわいをつくろう

目標②:海外からの観光客を「おもてなし」し大分市のファンを増やそう

#### 【これまでの主な取組み例】

①国際色をプラスし「まち」ににぎわいをつくる事業	
事業名	担当課
おおいた国際協力啓発月間事業	国際課
武漢市・オースチン市ミュージシャン「おおいた夢色音楽祭」招へい事業	国際課
姉妹都市オースチン市マラソン交流事業	国際課
おおいたワールドフェスタ	国際課
国際化・国際交流イベント支援事業	国際課
姉妹都市アベイロ市提携40周年記念事業	国際課
武漢市友好都市締結40周年記念事業	国際課
「第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」大分市関連事業	国際課ほか
ラグビーワールドカップ2019関連事業	東京オリンピック・パラリンピック推進局ほか
フィジー共和国文化交流事業	東京オリンピック・パラリンピック推進局
大分国際車いすマラソン事業	障害福祉課
共生社会ホストタウンイベント「スイスフェア」	障害福祉課
「商都復活支援事業」を活用したイベント支援事業	商工労政課
別府アルゲリッチ音楽祭	文化振興課
②国内外からの訪問者を「おもてなし」し大分市のファンを増やす事業	
事業名	担当課
無料公衆Wi-Fiスポットの拡大	情報政策課
ラグビーワールドカップ2019大分開催で設置する交流スペース「ファンゾーン」の設置	東京オリンピック・パラリンピック推進局
パンフレット、案内標識等の多言語化	観光課ほか
国内外における大分市のプロモーション	おおいた魅力発信局ほか

#### 【数値目標】

・姉妹友好都市をはじめとした海外都市との交流件数: \_\_\_\_\_ 件(2021~2024年度の累積)

### 施策3:地域の産業の活性化につながる国際ビジネスの推進

#### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

大分市はポルトガルアベイロ市、米国オースチン市、中国武漢市と、長年にわたり姉妹友好都市の関係にあります。この関係を活かし、これまで中国武漢市への進出のサポートなど、世界各地へ進出しようとする中小企業を後押ししてきました。

今後も、姉妹友好都市をはじめとした海外への新たな販路拡大にチャレンジする企業に対し、ジェトロ等の支援機関と連携し、商談会や交流会、展示会を実施する等のサポートを行うことで、海外への販路開拓を目指す企業を支援し、海外の成長市場を取込むことで地域の産業を活性化して、まちの活性化へとつなげます。

#### 【将来像】

大分市が誇る産品などの地域資源や多種多様な観光資源などを世界に向けて発信することで、地域経済活性化につながります。

目標①:海外ビジネスにチャレンジしよう

#### 【これまでの主な取組み例】

①海外ビジネスへのチャレンジへのサポート事業	
事業名	担当課
海外向け販路拡大商談会の開催	創業経営支援課
姉妹友好都市へのビジネス展開のサポート	創業経営支援課
展示会等への参加に対する支援	創業経営支援課

#### 【数値目標】

・海外展開支援件数:200件 (2020~2024年度の累積)

※「大分市総合計画第2次基本計画(2020~2024年)」目標値  
目標値の年限は、大分市総合計画に準じます

#### 施策4: 持続可能な世界の実現のための国際協力・国際貢献の推進

##### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

グローバル化の進展により、世界で起こる出来事がわたしたちの日々の生活に大きな影響を与えている中で、国際社会の一員として、国際社会の平和と安定、発展のため、世界で起きている貧困や環境破壊等の人類共通の課題を解決していくことが求められており、2015年9月の国連サミットにおいて採択されたSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け、世界各国が協力し積極的に取り組むことが求められています。

本市においても、友好都市中国武漢市との間で環境分野における協力・交流事業を展開するなど、これまでさまざまな分野において本市が持つ技術やノウハウを活用しながら、国際協力を推進しています。また、国際関係団体、機関等と連携し、市民レベルにおける国際協力の活発化に向けた取り組みも行っています。

このような国際協力は、本市が世界に誇れる世界的プレゼンスとして、地域の魅力の再発見や郷土の誇りへとつながり、新たな地域活動の道が開け、異文化理解・多文化共生の意識が育まれるなど、さらなる地域活性化や、国際性を持つまちづくりに発展する可能性も秘めています。また、一方的な支援だけでなく、双方が経験を分かち合い、メリットを得られる“win-win”の効果をもたらす国際協力は、本市の持続的な発展につながっていくこととなります。

今後も、様々な主体とともに、国際協力や都市間連携などを通して、本市が国際社会の一員としての役割を果たしていくことが必要です。

##### 【将来像】

国際協力・国際貢献活動に取り組むことで、持続的な世界の平和・発展につながるとともに、本市の魅力の発信や様々な分野における発展につながり、ひいては地域の発展へとつながります。

目標①: 身近でできる「国際協力」から始めてみよう

##### 【これまでの主な取り組み例】

①国際協力推進事業	
事業名	担当課
おおいた国際啓発月間事業	国際課
JICA青年海外協力隊派遣事業	国際課
友好都市武漢市との大気環境改善事業	環境対策課
友好都市武漢市とのごみ分別・減量促進事業	環境対策課
友好都市武漢市との水質環境改善事業	環境対策課
消防車コンゴ共和国寄贈、技術指導（「草の根・人間の安全保障無償資金協力」寄贈事業）	消防局
日本・タイ知識交流セミナー（ごみ減量支援）	ごみ減量推進課

##### 【数値目標】

- ・国際関係団体や市民への国際協力事業サポート件数: 35件  
(2021~2024年度平均値)

## 推進テーマ:多文化共生

### 施策5:人権尊重を基調とした多文化理解の促進

#### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

わが国では、超高齢社会、人口減少社会を迎えたことにより、地域においてコミュニティ機能の低下が社会問題となっている一方、日本に住む外国人数は年々増加しており、今後は外国人市民も地域社会の役割を担うことが期待されています。

このような中、文化や習慣などの異なる人々が、お互いの違いを理解し、対等な関係を築きながら地域社会の構成員として共に暮らしていくためには、多文化理解によるまちづくりが必要です。

また、多文化理解は、本市に居住するすべての人々にとっても暮らしやすいまちにつながるだけでなく、本市の持続的な発展や、本市を訪れる外国人観光客等の満足度を高めることにもつながります。

本市ではこれまで、様々な国の文化や習慣に気軽に触れることができるイベントや、留学生との交流事業、公民館等での外国の料理教室や多文化理解講座などを行ってきました。今後も、市民の多文化理解の促進につながる事業を実施します。

#### 【将来像】

市民が多文化理解に関する知識と認識を深め、人権尊重を基調とした差別をしない、させない多文化共生社会が実現します

目標①:国際化・多文化共生イベントに参加しよう

#### 【これまでの主な取り組み例】

①国際化・多文化共生イベント事業	
事業名	担当課
おおいたワールドフェスタ	国際課
大分国際協力啓発月間事業	国際課
多文化共生出張講座	国際課
国際化・国際交流イベント支援事業	国際課
「第33回国民文化祭・おおいた2018、第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」大分市関連事業	国際課ほか
各公民館で実施する国際化・多文化共生関連イベント	市民協働推進課
ラグビーワールドカップ2019関連事業	東京オリンピック・パラリンピック推進局ほか

#### 【数値目標】

・国際化・多文化共生イベントへの参加者数:38,000人 (2020~2024年度平均値)

※「大分市総合計画第2次基本計画(2020~2024年)」目標値  
目標値の年限は、大分市総合計画に準じます

## 施策6:あらゆる国籍の人々が共に活躍できる環境づくり

### ■現在の取り組み・未来へのビジョン・課題

本市では、2020年12月末現在で3,484人の外国人市民が在住しています。市内総人口に占める外国人市民の割合は、全国と比較して高くはありませんが、国の動向からも近い将来、外国人市民の増加が予想され、言語、文化、生活習慣、制度等の違いから、新たな地域課題が生じることも考えられます。

また、外国人も日本人と同様に、生活期間が長くなるにつれて単身者から家族へ、結婚・出生から子供の育児・保育・教育へ、労働者から起業家へなど、地域における役割も変容していきます。その際に、日本人社会と断絶された別社会ではなく、共存共栄の関係をつくる必要があります。そのためには、外国人市民も地域で活躍できる環境を整備することで、積極的に外国人市民の地域社会への参加を促すなど、地域全体のあり方を見据えた新しい地域社会のシステムづくりが必要となってきます。

このようなことから、今後も日本人と外国人が共に活躍できるよう、外国人市民にとっても暮らしやすい環境づくりを進めるとともに、市民や関係団体との連携により、多様性を尊重し共に支え合う意識の醸成を行うことが必要です。

#### 【将来像】

あらゆる国籍の人々が共に地域を支え、それぞれの持てる力を最大限発揮することで、だれもがふるさとと思えるまちになり、地域の持続的な発展につながります。

目標①:外国にルーツを持つ人々も暮らしやすいまちにしよう

#### 【これまでの主な取り組み例】

①外国にルーツを持つ人々も暮らしやすい環境づくりのための事業	
事業名	担当課
外国人来庁者への多言語対応	国際課
留学生向け生活オリエンテーション	国際課ほか
技能実習生に対する生活オリエンテーション	国際課ほか
留学生向けごみ分別指導・啓発の講習会	ごみ減量推進課
外国人市民への住宅防火推進事業	消防局警防課

#### 【数値目標】

多言語による大分市からの情報発信の件数: \_\_\_\_\_ 件 (2021~2024年度の累積)

## 第7章 推進体制

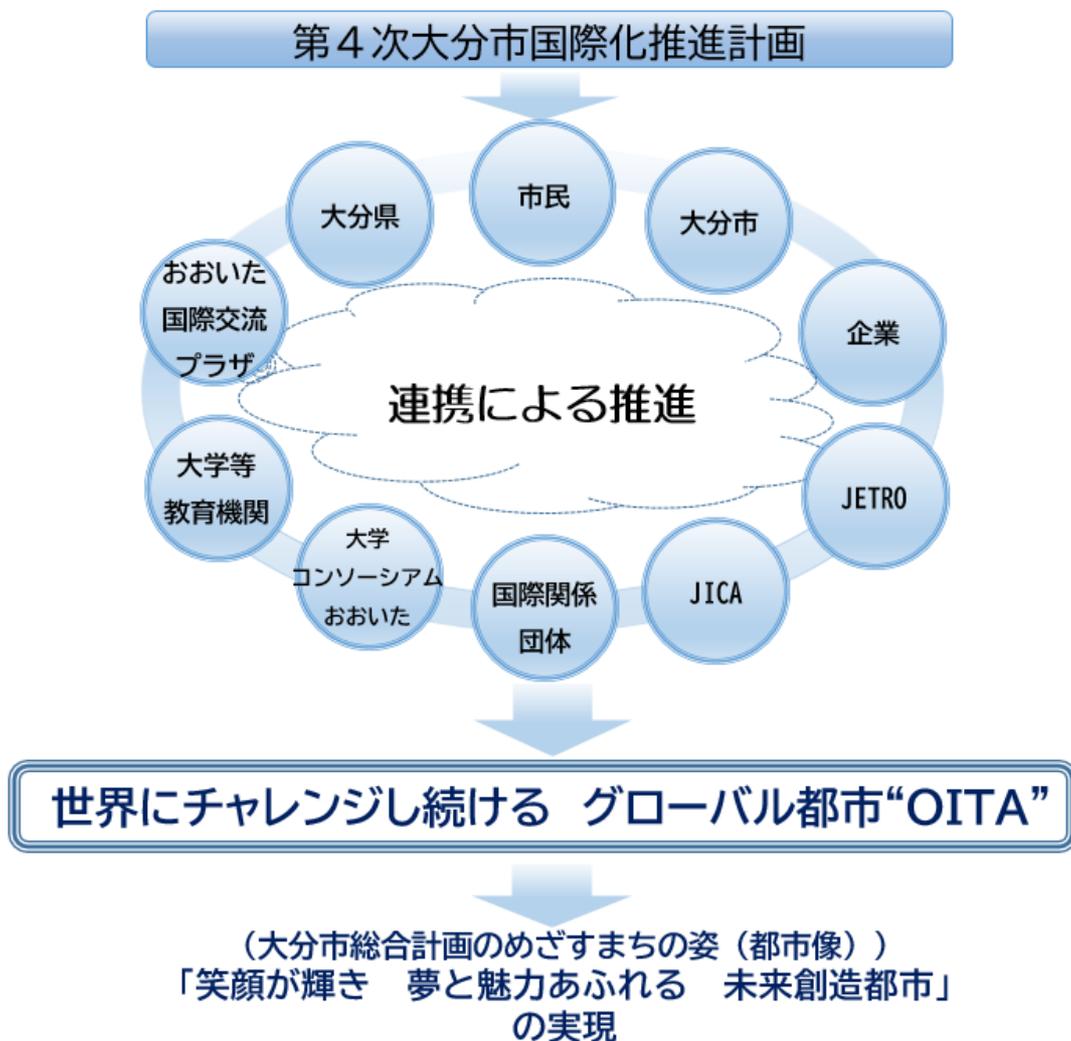
### 1. 様々な主体の参画・連携

本市の国際化を推進していくためには、行政だけではなく、市民一人ひとり、企業、国際関係団体等との連携・協力・協働による取り組みが必要です。そのため、本市の国際化推進の活動基盤として、市民、企業、国際関係団体等とのネットワークを構築し、様々な主体の活動を通して国際化を推進していきます。

### 2. 計画の進捗管理

本計画及び国際化施策の推進には、庁内の関係各課の理解と取り組み、計画の推進体制の整備が必要です。そのため、計画の推進にあたっては、毎年進捗状況や新規事業の確認を行うとともに、必要に応じて関係課を集めた会議を開催し、国際化の推進に向けた取り組みを総合的に推進していきます。

### 推進体制のイメージ



## 第8章 国際化関係団体の紹介

大分市にはさまざまな国際関係団体があります。ここでは、主な団体を紹介します。

### ■おおいた国際交流プラザ

#### 《主な事業》

「おおいた国際交流プラザ」では、日本人と在住外国人がお互いを理解しながら共に住み良い県を目指す「多文化共生社会」の実現に向け、さまざまな講座やイベント、外国人のための無料相談会等を開催しています。また、登録ボランティアによる通訳・翻訳の支援や、国際交流・協力等に関するさまざまな情報の提供などを行っています。

また、おおいた国際交流プラザ内の「大分県外国人総合相談センター」では、県内に暮らす外国人や、その関係者等に対して、仕事や普段の生活等で困ったこと、心配なことなどについて、多言語による相談を受け付けています。

《住所》 〒870-0029 大分市高砂町 2 番 33 号(B1F)

《電話》 097-533-4021

097-529-7119(大分県外国人総合相談センター)

《FAX》 097-533-4052

### ■大学コンソーシアムおおいた

#### 《主な事業》

特定非営利活動法人大学コンソーシアムおおいたは、県内の大学と、経済界、行政、民間団体等が加盟しているNPO 法人です。地域と留学生の共生、そして留学生のチカラを活かした魅力ある地域づくりを目的としています。留学生による語学教室や料理交流などの地域交流のほか、留学生の地域活動の支援、就業・起業の支援などさまざまなプログラムを行っています。

《住所》 〒870-0839 大分市金池南 1 丁目 5 番 1 号 ホルトホール大分 2F

《電話》 097-578-7400

《FAX》 097-578-7401

### ■JICA デスク大分

#### 《主な事業》

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンを掲げ、多様な援助手法のうち最適な手法を使い、地域別・国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせ、開発途上国が抱える課題解決を支援していきます。

《住所》 〒870-0029 大分市高砂町 2 番 33 号(B1F)おおいた国際交流プラザ内

《電話》 097-533-4021

《FAX》 097-533-4052

■JETRO大分

《主な事業》

日本貿易振興機構(JETRO)は、70カ所を超える海外事務所ならびに本部(東京)、大阪本部、アジア経済研究所および国内事務所をあわせ約40の国内拠点から成る国内外ネットワークをフルに活用し、対日投資の促進、農林水産物・食品の輸出や中堅・中小企業等の海外展開支援に機動的かつ効率的に取り組むとともに、調査や研究を通じ我が国企業活動や通商政策に貢献します。

《住所》 〒870-0037 大分市東春日町17-19 大分ソフィアプラザビル4階

《電話》 097-513-1868

《FAX》 097-513-1881

《関連資料》

■大分市国際化推進計画改定の経緯

- ・年表
- ・市民意識調査概要
- ・市民意見公募手続概要

■第4次大分市国際化推進計画策定委員会設置要綱

■大分市国際化推進計画策定委員会委員名簿

- ・第1次～4次

■大分市国際化推進計画策定にかかる市民意識調査：報告書